

1 学校教育目標

なんでもがんばる東綾瀬 ～自らの伸びや高まりを実感できる学校～

○ すすんで学ぶ子 ○ 助け合う子 ○ 体をきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校 ○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校 ○ 保護者が我が子を通わせてよかったと実感でき、地域からも信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童 ○ 互いの違いとよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童 ○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童に敬愛され、保護者・地域からも信頼される教師 ○ 児童に求めることは、自らも率先垂範する自己に厳しい教師 ○ 学校に求められる課題を主体的に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

① 児童

明るく素直な児童が多い。前向きに何事にも取り組もうとする積極性が見られる。学習に対しても真面目に取り組み、各学力調査では概ね平均を上回ることができていると考える。一方で、学習における個々の能力差や生活指導の規律徹底、また豊かな心の育成や誰にでも公平に接する態度などには、継続した指導が必要である。コミュニケーションに課題のある児童に対し教職員全体で対応し、必要な児童には介助員を配置している。緊急時には校内体制をとることも多々あり、学校全体として組織的対応を続けていくことが、継続的課題であり目標である。

② 教師

児童理解に努め、厳しさと愛情をもって児童に接している。校長の学校経営方針を理解し、その実現のために努力しており、よりよい授業を目指して日常の教材研究にも熱心に取り組んでいる。全ての教師が一枚岩となって共通行動を行っていくことを継続して啓発し、これからも保護者や地域の方々の信頼をより高めていく必要がある。また特に若手教員は、教員としてのスキルに関する基礎基本をしっかりと身に付けさせることが必要である。

③ 保護者・地域

地域の方々も学校創立から携わっている方も多く学校に対する思いは熱い。地域と学校を結び付けて子供たちの健全育成を考えている方が多い。保護者の学校行事等への参加・協力も積極的である。潜在する保護者や地域の思いや願いにも耳を傾けつつ、学校経営に生かしていく。

(2) 前年度の成果と課題

① 学力向上

・足立スタンダードに基づく授業を積み重ね、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。引き続き、AIドリル等も活用しつつ個に応じた指導を行う時間を確保し、基礎・基本の更なる定着に努める。

・「活用力向上ガイドライン」に基づく算数授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。この授業スタイルを他教科にも広げるとともに、新たな教育課題や教員各自の専門分野の研究を促し、指導力の向上に努める。

・パワーアップタイムや放課後補習の取組に工夫を重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着に努めた。また、学習支援員やそだち指導員との連携を図り、個に応じた学習指導の効果的实施に努めた。

② 体力向上

・日常の体育学習の充実を図ることを柱として、運動遊びや運動の日常化を推進している。今後も外遊びの励行など遊びや運動の日常化を推進していくとともに、引き続き児童がスポーツに親しむ機会を確保していく。

③ 豊かな心の育成

・道徳授業、道徳教育の一層の推進を図る。週1時間の道徳の時間を充実させるとともに課題解決的な学習の中で豊かな心の成長を進める。

・教員の意識改革を進めるとともに組織的な生活指導体制を充実させることで、いじめ等の問題の早期発見・解決を実現に取り組むことができた。不登校傾向の児童や特別に支援の必要な児童への働きかけを継続し、状況の改善に努める。

④ 働き方改革

・行事の削減や会議の精選、C4thの活用等推進した結果、超過勤務や休日出勤は減少した。しかし月ごとの超過勤務時間45時間以内は達成できていない教員がまだ数名いる。引き続き校務分掌の弾力的な運用など改革が必要と考える。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン *【継続・新規】東綾瀬小 BAAP プランの実践	○	○	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力向上	◎	◎	◎	◎	◎
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン *【継続・新規】東綾瀬小 BAAP プランの実践			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成	区学力調査 通過率国語 86%算数 86%				
B 目標実現に向けた取組み					

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続・新規	Basic 基礎的・基本的な内容の 定着	全学年 各教科 授業の充実	通年	足立スタンダード虎の巻に基づく授業を積み重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着【指導体制】教員 講師・デジタル教科書をはじめICTを活用し、学習内容の確かな定着を図る。校内研修で教員のスキルアップを図る	授業観察、各種研究授業において年2回ICT活用した授業を公開	児童のアンケートでICTを使った授業が楽しいなど肯定的な意見が90%以上	気付く・発見する 新たな事象に気づき、課題を発見し、興味をふくらませる つかむ・見通す 学習の大まかな内容をつかみ、課題解決への見通しをもつ 追及する / 調べ活動や観察・実験を行ったり、意見交流などを行ったりして事実を追求し、課題解決に向けて学びを深めていく まとめる / 観察・実験による結果や、様々なタイプの資料から情報を抽出し、自分なりの考察を加え、自分の考えをまとめていく		
継続・新規	Appication 思考力・判断力・表現力等の育成	全学年、 全教科	全学年 基礎学力に課題のある児童	【指導体制】全教員・主にAIドリルを活用した課題別学習指導	Assesmentにおけるリベンジテストにて診断	対象児童の診断テストの正答率70%以上	生かす・伝える / 習得した概念・法則などの知識や取材・発表などの技能を活用したり、自分なりの考察を加えてまとめた考えを発信したりする 評価 / 自己評価や相互評価を有効に活用し、5つの段階を振り返るとともに、次のプロセスの入口である気づきや発見を確認 道徳科においては、 導入→展開前段→展開後段→終末		
			全学年、 全教科	1 単位時間の問題解決的な学習過程の中に、児童の思考・判断を伴った「書く」「話す」「話し合う」といった言語活動を位置付ける。	「Appiicationシート」を活用した授業構成及び授業観察における検証	Appiicationシート」の各教科での活用前期(試行段階)60~80%後期終了100%			
継続・新規	Assesment 学習指導の効果検証定着度テスト(新規:リベンジテスト)	全児童 国語・算数	9月、11月、1月の計3回	【指導体制】担任+学力評価委員会・国・算の学習の定着度の評価を行うために、長期休業前後で類似のテストを行い休業中の学習のめあてにする。	定着度テスト(9、11月、1月)前年度~4月調査で明確化された課題に焦点を当て行う。	2回目のテストは、1回目より、正答率を5%以上向上。最終的に正答率を80%以上にする。	1 単位時間→「書く」「話す」「話し合う」言語活動 1 単元→習熟・活用を図る言語活動 ↓ 単元を貫く課題解決的な言語活動		

継続・新規	Power up ショートパワーアップ タイム (SPU)朝読書 別枠	全児童	始業前朝読書 SPU 図書 の時間	【指導体制】担任+図書館支援員+図書館ボランティア ・読書時間を確保し読書好きを育て読解力を高めるパワーアップタイムや放課後補習の取組に工夫を重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着	読書通帳 読書旬間の児童アンケート	年度末学校評価アンケートで意欲的に読書に取り組む80%以上	教育活動全体を通じた読書活動を推進する ・語彙や表現を豊かにする ・適切な教材を取り上げる ・学校図書館を計画的な利活用推進

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成					
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
「あいさつ・返事・靴そろえ」を基本とし、思いやりの心もち、助け合い、協力して活動できる子を育成し、いじめのない明るく楽しい学校作りを推進する。		○全教員が道徳科での校内授業を行う。 自己評価8割以上。 ○自校アンケートにおける学校が楽しい及び児童の自己肯定感に関する項目について80%以上が肯定的と回答					
B 目標実現に向けた取組み							
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度	
道徳教育と児童理解に基づいた生活指導体制の確立	○学校評価アンケートにおける目標項目に関する評価について肯定的評価95%以上 ○児童へのアンケート「思いやり、礼儀、規範意識」に関する項目についての肯定的評価が90%以上	・毎週木曜に生活指導夕会を実施。児童情報を共有する ・SCの活用と諸機関との連携 ・GoogleFormを活用した「児童アンケートの実施とQUからの分析 ・いじめアンケートの実施と結果に対する迅速対応 ・特別な教科道徳の授業で人との関わりを重点的に指導		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 目標達成に向けての多面的な評価の活用 ・学校評価アンケート（保護者・教職員） ・学校評価アンケート（地域・開かれた学校づくり協議会） ・学校独自アンケート（児童・教員 隔月） ・360度評価 </div>			
学校行事・体験的活動の充実	○学校評価アンケートにおける行事や体験的活動に関する項目で肯定的評価95%以上	・七フレ班活動や児童主体のいじめ防止活動の充実 ・挨拶運動の通年化 ・幼保園児との交流活動 ・全学級が道徳授業を公開					

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動する楽しさや友達と競い合う楽しさを味わわせることを通して、自ら運動に親しむ態度と体力の向上を図る。		○体力テストの総合評価におけるA B評価 45%以上、D E評価 20%以下			
項目	達成基準	具体的な方策			
遊びや運動の日常化	○中休みの外遊び参加児童 90%以上 ○体育朝会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「中休みは全員外遊び」の徹底と外遊びの安全管理 ・体育朝会を毎月効果的实施 ・「長なわ」「持久走」の強化 ・区スポーツ大会への参加 			
外部、地域、保護者とも連携した体育科の授業改善	○体育好き児童 95%以上 ○授業における 30 分間の主運動時間確保 ○体力向上に関する取り組みについて肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・GoogleForm を活用した「児童アンケート」の実施 ・外部連携した体力テストの実施 			

6 まとめ